

新型コロナウイルスには ワクチンが有効です。

「若いからコロナに罹っても風邪より軽いよ」「若い人にはワクチンの方がコロナより怖い」 こういう話が聞こえます。そんなことはありません。「新型コロナウイルス感染の重症例、治ったあとの後遺症のリスク」は「ワクチンの副反応のリスク」より圧倒的に高いのです。

Q 若者は新型コロナウイルスに感染するより、
ワクチン接種の副反応のほうが危険じゃないですか？

A 新型コロナがデルタ株に置き換わってからは、酸素が必要な中等症、人工呼吸器が必要な重症になる方も見られます。また、一見完治したように思えても、後遺症（嗅覚・味覚障害、疲労感、記憶障害、脱毛等）に苦しんでいる人も少なくありません。一方、ワクチンの副反応は打った方の約半数にみられますが、一時的であり数日で改善することがほとんどです。
「ワクチンを打たないことで重症化したり後遺症を残すほうが、ワクチン接種より圧倒的に危険です！」



Q ワクチン接種で不妊になるんじゃないの？

A 新型コロナワクチンで不妊になるという科学的根拠はありません。

詳しくは厚労省の新型コロナワクチンQ&Aで説明されていますので、裏面をご覧ください。

逆に妊婦が新型コロナに罹った場合、早産のリスクが高まると言われており、日本産科婦人科学会でも、妊娠中の妊婦さんがワクチンの接種を受けることを推奨しています。

Q ワクチンを接種すると心筋炎、心膜炎がおこることがあるのでは？

A ワクチン接種後の心筋炎や心膜炎は稀に報告されていますが、仮に発症した人もほとんどが軽症です。接種後に息苦しさや、胸の痛み等があれば医療機関を受診することで早期発見、早期治療が可能なので過度に恐れる必要はありません。

また、コロナに罹った場合、ワクチン接種した場合よりも高い頻度で心筋炎がみられています。ワクチンを接種することで重症化を抑えるほうが賢明です。



Q ワクチンは治験段階で、長期的な安全性が不透明じゃないの？

A 新型コロナウイルスワクチンは、臨床試験で有効性と安全性に関して厳格な評価が行われており、医薬品開発に必要な臨床試験（治験）のプロセスを経て承認されています。

また、長期的な安全性に関してですが、これまでの様々なワクチンの副反応はほとんどが2か月以内に起こることから、接種から6週間までの観察で出現しないような新たな副反応が、遅れて出現する可能性は極めて低いと考えられています。

「新型コロナウイルスワクチンについてもっと知りたい」という方は、
右のQRコード or 下の言葉で検索！

厚労省 コロナワクチンQ&A

検索

